

# 『全き者』 ～約束を受け継ごう～

創世記 17：1～8

聖書では「全き者であれ」と言われます。聖書で言う「全き者」とはどんな人なのでしょう。またそうなるためにはどうすればよいのでしょうか。全き者として、アブラハムがあげられます。アブラハムはどんな人だったのでしょうか？どうしたことを通して完全な者となったのでしょうか。試練を乗り越えた、忠実であったなど、アブラハムはいつも途中でやめず、やれと言われたことをきちんとしました。そしてアブラム（子につかわれる父）からアブラハム（全ての者の父）に変わりました。今あなたはアブラムですか？アブラハムですか？あなたゆえに祝福される人生を歩みますか？「アブラハム、ヤコブ、イサクの神」とあるように父ゆえに子が祝福され、子ゆえに孫が祝福されたのです。そして今、アブラハムの契約は私たちのものになりました。ただただ神にせよといわれたことを忠実にした者が全き者なのです。全き者でないと自信がなくなります。聖書の中のダビデは「主にも人にも愛された者」であり、全きものでした(詩篇 119：80)でも失敗をしない人ではありませんでした。大きな罪も犯しました。しかしダビデは全きもの歩みを通したのです。あなたはこの家計図にのっています。だからあなたが全き者でなかったら、この先祖代々の生き方をつぶすことになります。しかし100点満点完璧な人なんていません。では神の求める完璧になるためにどういうものが必要なのでしょう。(ピリピ 1:9～、2:13～) まず**①非難されない生き方**をしているでしょうか。人に何かを言われて、元気がなくなってしまったり、怒ってやる気を失っている事はないでしょうか。やっている事に使命感や神からの確信があれば自信があります。聖書にはノアのように周囲からの目によっても影響されず、箱舟造りをやり遂げられました。私たちの歩みも同じように周囲の目や言葉の影響により自信が持てずにやめてしまうのでは意味がありません。それは問題から逃げていることになります。私たちは何事にも逃げずにやり遂げる意志が必要です。ですから言われていることを確実にしていき、人から非難を受けないように歩めばよいのです。たくさんやらなくてよいのです。「やれ」と言われたことを忠実にやりましょう。やるべきことが途中やめになっていませんか？色々なことをちょっとずつではいけません。自信をつけるには神にすべきことをしていくしかないので。1つの使命を果たすために人にはそれぞれやるべきことがあるのです。だから人と比べず今あなたがすべきことをし、あなたの使命を果たすために非難されないようにしましょう。 **②純真な生き方**。自分にうそをつかなければいいのです。自分の心を磨けばいいのです。あなたの心がにごってはいけません。非難されるのは二心があるからです。あなたの心は今まっさらですか？あなたの心を喜んでやる心にすればよいのです。色々考えないでやればよいのです。子どもはしたいことを素直にします。だからあなたがしたいことを喜んでやればよいのです。根本の神との関係がずれるとそうなります。自分の問題の根本を見てください。人は自分が変わるとき、痛みを伴います。しかし人は必ず変われます。自分の弱さ欠点を知っておく必要があるのです。投げ出さないでください。 **③赦しの生き方**。自分が全き生き方をしようとしていると、全き生き方をしていない人を赦せなくなってしまいます。しかしそれではいけません。神様が完璧を求めているのはこの部分です。①②ができていてもこれができなければいけません。「あなただけがたは、天の父が完全なように完全でありなさい」(マタイ 5:48)ではこの箇所だけ天の父が使われています。“アバ父”である主の愛と「あなたがたの天の父があわれみ深いように、あなたがたも、あわれみ深くしなさい」(ルカ 6:36) 憐れみが母の胎を表しています。私たちの歩みが非難されず純真であっても赦しがないのであれば、意味をなさないのであります。父親や母親が子を思うほどの愛は完全な愛に近いものです。ですから私たちは周りの人と接する時、親の気持ちで接していく必要があります。親は子を放棄しません。親の愛は子供に対して逃げる、あきらめるといことは含まれません。子供を赦し愛していくものです。ですから人間的に赦せないことも赦せる人になりましょう。神様はあなたにそのような思いで接しています。あなたの父が神様であると思っていれば自信は持てるはず。放蕩息子を受け入れた親のように、今あなたの人生にどんな問題があっても逃げないでください。途中であきらめないでください。純粋な思いで接すればあなたも周りも変わります。そうすればあなたも「全き者」になりあなたに与えられるものを受け継ぐことができます。